

要 望 書



対馬市議会・壱岐市議会

令和5年2月14日

長崎県知事

大石賢吾様

対馬市議会

議長 初村久藏

壱岐市議会

議長 豊坂敏文

令和5年度県政に対する要望

壱岐市・対馬市の市政運営につきまして日頃より格段のご高配とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

両市議会では有人国境離島地域の保全及び特定有人国境離島地域に係る地域社会の維持に関する特別措置法（平成28年法律第33号。以下「有人国境離島法」という。）を最大限に活用した取組を調査研究するため、「国境離島活性化推進特別委員会」を設置しています。

念願でありました有人国境離島法は平成29年4月に施行、改正離島振興法は令和4年11月18日に成立し、両市及び国境離島地域においては、追い風が吹いているところではありますが、両市を取り巻く現状は、急速な人口減少・高齢化に加え、新型コロナウイルス感染症拡大の長期化により観光産業に大

きなダメージを受けています。

改正離島振興法、有人国境離島法等の活用により交流人口拡大を図り、観光産業の振興と両市の活性化を図るため、本委員会で要望を取りまとめてまいりましたので、次の諸事項につきまして格別のご配慮を賜りますようお願いいたします。

1. 離島航路におけるジェットフォイルの更新について

離島航路は、人・物の流通手段として島民生活及び産業経済活動に欠くことのできない重要な役割を果たしており、特に高速船ジェットフォイルは、荒天においても高い就航率と速く、安全で快適な乗り心地が利用者に支持され、離島航路に必要な不可欠な存在となっています。さらに、島民生活の足としてだけでなく、本土の医療機関への迅速な患者搬送、また、観光促進を図る上での海上交通手段として深く浸透しております。

しかしながら、現在、壱岐市・対馬市に就航している2隻のジェットフォイルは、船齢が37年、31年経過しており、船体の老朽化が進む中で、莫大な費用のかかる代替船建造計画は一向に進んでおらず、今後の高速船運航の存続を大変危惧しております。

令和4年11月18日に成立しました改正離島振興法の第12条では「高速度で安定的に航行することができるものその他の船舶の新造及び更新に対する特別配慮規定」が明記され、また、成立にあたり衆議院・参議院の国土交通委員会では「離島に係る交通関連事業者を支援する地方公共団体に対する支援の在り方について検討すること」とする付帯決議も表明されています。

離島の将来を左右する高速船ジェットフォイルの更新について、改正離島振興法、有人国境離島法の目的に沿った国の施策として、新たな支援策を積極的に推進され、離島航路におけるジェットフォイル更新に対する国、県の財政的支援を強く要望します。

2. バンカーサーチャージ補助について

壱岐、対馬と本土を結ぶ航路運航事業者である九州郵船株式会社は、燃料油価格変動調整金（以下「バンカーサーチャージ」という。）を3カ月ごとの「財務省貿易統計（C I F）旬間速報」に基づき見直し、航路運賃に反映させています。原油価格は徐々に値上がりが続けてきましたが、ロシアのウクライナ侵攻による影響や急激な円安により、昨年从高騰が続いています。

従って、バンカーサーチャージによる航路運賃の値上げは必至であり、島民生活に直接的な影響があります。しかしながら、有人国境離島法や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を利用した、これまでの運賃高騰抑制対策などにより、最小限の負担増に抑えられると想定しております。

一方、これらの制度の恩恵を受けられない島外者は、高騰した運賃を満額支払うことになり、観光客や帰省者等の人流が大きく抑制されることが予想されます。

両市において観光業は主な産業の一つであり、新型コロナウイルス感染症により傷ついた島内経済を回復させるには、交流人口の拡大は必要不可欠な施策となります。

つきましては、島外者のバンカーサーチャージに対する補助等、交流人口拡大に向けた支援制度拡充を強く要望します。

3. 空港の整備について

①対馬空港施設の整備について

我が国を取り巻く安全保障環境は、北朝鮮、中国及びロシア・ウクライナ情勢、また、大規模災害等の様々な課題及び不安定要因が顕在化・先鋭化し、かつてないほどの厳しさを増しております。特に、北朝鮮による度重なる弾道ミサイル発射、核兵器開発は、国際社会に対する挑発的言動とあいまって、わが国を含む国際社会の安全に対する重大かつ差し迫った脅威となっています。

朝鮮半島有事の際には、国民の生命の安全確保が最も重要であり、国境離島である本市にとっては早急な避難対応、在韓邦人等の対馬経由の移送も想定されることから、脆弱な対馬空港の整備改修は必至であります。

また、対馬空港は立地条件が悪いことに加え、他の離島空港と比較しても滑走路延長が1,900mと短いことから、国内空港の中でも非常に着陸が難しい空港であるといわれ、悪天候による着陸のやり直しや引き返し、欠航が多く、安心・安全・安定運航に影響を及ぼしている状況であります。

以上のことから対馬空港の滑走路を最低2,000m以上に延長整備すること、併せて空港消防力の設備強化を図ることを強く要望します。

②壱岐空港の整備について

現在、長崎空港と壱岐空港間で運航している39人乗りの中型機、ダッシュエイトQ200型機2機は、導入後20年が経過し、構造寿命を間もなく迎えようとする中で運航がなされております。

こうした中、当該機材は既に製造中止となっているため、運航会社のオリエンタルエアブリッジ社においては、後継機の検討が重ねられ、令和4年度から48座席のATR42型機2機を順次導入し、パイロットの養成等を行いながら、令和5年夏頃から運航開始に向けて準備が進められております。

一方、県内離島の内、福江空港、対馬空港には74座席を有するダッシュエイトQ400型機が運航されておりますが、同型機を運航するには、滑走路延長が1,500m、滑走路幅が45m必要であります。

また、例えばフジドリームエアラインズでは、福江空港、対馬空港とのチャーター便が度々催行されておりますが、現1,200mの滑走路延長の壱岐空港ではチャーター便の誘致も厳しい現状にあります。

将来の壱岐の空路の維持存続と地域振興発展には、どの機種でも離発着できる滑走路の整備が必要であると考えております。

また、国境離島の保全という観点からも極めて憂慮する状況であり、滑走路延長を目指すという共通の認識のもと、平成30年8月に壱岐市国境離島新法制定民間会議による空港整備促進期成会が設立され、壱岐市の重要課題に官民一体となって壱岐市全体として推進することを確認しております。

つきましては、壱岐市の空路存続のため、1,500m以上の滑走路を有する空港の整備に係る調査費の予算確保を強く要望します。

対馬市議会

国境離島活性化推進特別委員会

令和3年7月2日設置

委員長	作元義文
副委員長	波田政和
委員	糸瀬雅之
委員	陶山荘太郎
委員	神宮保夫
委員	船越洋一
委員	小宮教義

○特別委員会重点取組事項

- ①ジェットフォイルの更新について
- ②対馬空港滑走路の延長について
- ③航路・航空路運賃低廉化の対象者拡大と
有人国境離島法の延長について
- ④高速回線の整備について
- ⑤人口減少・雇用対策について

壱岐市議会

国境離島活性化推進特別委員会

令和3年8月12日設置

委員長	土谷 勇二
副委員長	赤木 貴尚
委員	森 俊介
委員	中原 正博
委員	音嶋 正吾
委員	小金丸 益明
委員	市山 繁

○特別委員会重点取組事項

- ①ジェットフォイルの更新について
- ②壱岐空港滑走路の延長について
- ③航路・航空路運賃低廉化及び対象者拡大について
- ④再生可能エネルギー導入促進について
- ⑤磯焼け対策について